

◎里山の休日に考えること



大和高原の小さな村に住む私の休日の過ごし方を紹介しましょう。

上の写真は、我が家の裏庭です。かつてここは田畑の耕作に使う牛などの家畜小屋、薪(たきぎ)小屋、竹藪のあった所です。長年、イノシシの活動する場所になってしまっていました。彼らイノシシの奴らは、餌のミミズを食べた後、大好きな泥浴びをして山に帰っていくのです。

そこで裏庭に5cm程の厚みのある花崗岩の板を敷き詰めました。しかしミミズやヤマイモを探すために、奴らはたとえ花崗岩の板であってもひっくり返してしまうのです。

もはや5cmではダメなので20cm～30cmの厚みのある花崗岩を、上の写真のように並べているのです。これならいくらイノシシと言えども悪さは出来ないだろう。

ところが彼らは、花や花木を植える花壇の中でミミズを探し、泥浴びを楽しんでいくのです。

イノシシやシカとの共存。これが究極の里山の姿ではないかと我が家の裏庭は教えてくれるのです。読者の皆さんはどのようにお考えでしょうか。イノシシが人の居住地に出没、しばしばニュースにもなっています。

◎イノシシ・シカのために栗の木を植える

2021年2月16日放送NHKBS Cool Japan で紹介された宮崎県椎葉村の「焼畑」。縄文時代以来の自然との共存という内容でした。一巡り25年という長いサイクルで山林を管理する。特に心ひかれたのは、野生動物が人間の里に近づかないために、人の手で栗の木を植林していることです。

考えてみれば、大和高原の生業の一つは「炭焼き」でした。クヌギ・シイ・ナラ・カシなどの落葉広葉樹を4～5年に一度枝を切り、炭を焼きました。クヌギの木はまた4～5年後に枝を再生させ、昆虫・小動物を含めた自然のサイクルの中で人びとは生きてきました。かつてスギもヒノキも多様な森林のごく一部でした。今のようにスギ花粉ヒノキ花粉に悩まされることもありませんでした。

自然との共存。イノシシ・シカのために栗の木を植えることは、人のために桜の木を植えることよりも大切なのでは・・・。